

郡上市で、海・国境を越えた交流！



東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録されているコロンビア共和国及びマダガスカル共和国が、オリンピック出場を目指し、郡上市で合同強化合宿を行いました。

市では、スポーツツーリズムによる「観光立市郡上」を目指しており、全国・世界レベルのスポーツ合宿や大会の誘致のため、スポーツ環境の整備に取り組んでいます。

今回、異なる2つの国による合同合宿が行われたことで、文化の違いを踏まえたスポーツ合宿地のあり方や、スポーツツーリズムの促進のきっかけとなりました。

今月号では、言葉も文化も違う両国の合同合宿という貴重な経験をまとめました。

長旅を経て、郡上市へ

6月17日(月)、両国とも30時間を超える長旅を経て来日し、市役所を訪問されました。市長、市議会議員及び市職員は、両国の選手・スタッフを歓迎しました。

ホテルでの生活の様子

今回の合宿では、両チームとも同じホテルに宿泊しました。文化の異なる2カ国の選手が一つ屋根



▲歓迎の様子

の下で生活され、ホテルも対応が大変だったそうです。

初日の夕食メニューは、焼き焼きで、食文化や栄養バランスに留意し調理され、「コロンビアの選手たちは、おいしいと喜んで食べられました。しかし、マダガスカルの選手たちは、甘めのおかずが苦手とのことでしたが、ご飯を好んで何杯も食べていました。

食文化の違いにより、私たちがおいしいと思う日本の料理でも海外の人たちにとっては、口に合わないなどの思いを持つことがあります。海外の人を招く際は、その国の食文化などの知識があると、よりスムーズな対応ができると考えられます。

市民との交流

両チームとも、多くの市民と交流を図りたいという意向から、練習の合間を使って学校訪問を行いました。

今回は、白鳥小学校、明宝小学校、大和中学校、白鳥中学校の4校を訪問されました。身近に選手たちと触れ合えるように児童・生徒たちは5、6人の小グループに分かれ、グループ毎に両国の選手たちが加わり、それぞれラグビーボールを使ってコミュニケーションを図る交流などを行いました。

学校訪問の終盤では、おもてなしのお礼としてコロンビアの選手たちは、南国のダンスを、マダガスカルは、南国のダンスを、マダガスカルはハカ（マダガスカル民族舞踊）を披露し交流会を盛り上げてくれました。

また、6月19日（水）には、白鳥ふれあい創造館で行われた、白鳥おどり保存会によるおどり練習会に浴衣姿で参加し、市民のみなさんとの親睦を深めました。



▲生徒との交流の様子

第2回郡上グローバルラグビー女子セブンズ大会

◆開会式

郡上グローバルラグビー女子セ

ブンズ大会前日は、ラグビー愛好家以外にも大会に興味を持っていただく機会として、郡上おどりラグビーを融合した開会式を市産業プラザ前駐車場で行いました。

開会式は、両国駐日大使など、多くの関係者が参加されました。第一部の式典は、コロンビア、マダガスカル、そして日本の国家斉唱と国旗掲揚、市長、両国駐日大使をはじめとするあいさつなどが行われました。

第二部は、出場チームによるパフォーマンスや、笛、太鼓、居合といった日本の伝統文化の披露が行われ、最後には、全員で郡上おどりを踊り、楽しいひとときとなりました。また、郡上高等学校と八幡中学校の生徒や協賛企業によるおもてなしコーナーも設けられました。



◆大会当日

大会は、コロンビア、マダガスカル、国内では三重県、静岡県、

大阪府、島根県から4チームが参加して試合が行われました。

前回優勝のコロンビアチームは、予選から相手チームを圧倒し決勝へ進出しました。一方、マダガスカルチームは、試合の緊張からか全国高校ラグビーチャンピオンチームの石見智翠館高校に敗れてしまいましたが、総合成績3位と健闘されました。

決勝戦は、コロンビアチームと石見智翠館高校の対戦となり、スコア31対0とコロンビアチームが圧勝し、第1回大会に続き、大会連覇を果たしました。



合宿後インタビュー

コロンビアチーム ダビド ヘッドコーチ



市長をはじめ、市民のみなさんに対し、私たちを招待してくれたことに深く感謝します。

合宿を通して選手たちは、パフォーマンスだけでなく、国の代表選手としての自信と自覚を強化することができました。

コロンビアは、今年の6月1、2日に行われた南米地区予選大会で2位でした。そのため、来年行われる敗者復活戦で勝たなければなりません。今回応援して下さった市民のみなさんとともに東京オリンピックに出場する気持ちで、帰国後もトレーニングを積み、必ずオリンピック出場の報告をしたいと思っています。市民のみなさんこれからも応援をよろしくお願いします。

合宿後インタビュー

マダガスカルチーム 中野 ヘッドコーチ



郡上市のみなさん、関係者のみなさんに対し、選手一同みなさんの温かい思いに大変感謝しております。

合宿については、恵まれた環境の中で、コロンビアチームと一緒に練習ができたことは、選手たちにとって大きな刺激になったと思います。また、コロンビアチームの統制力も学ぶことができました。

アフリカ地区の予選は、8月に行われます。残りわずかですが、チームの課題を克服して、東京オリンピック出場という報告をしたいと思っています。市民のみなさん、マダガスカル女子ラグビーチームをこれからも応援していただきますようよろしくお願いいたします。

ホストタウン交流を支えてくれた リーダー校のみなさんへ

東京オリンピックを目指す両国の応援サポーターとして、今年の5月に市内の高等学校、中学校に対しリーダー校を募集したところ、郡上高等学校、郡上北高等学校、大和中学校、八幡中学校の4校が担当していただくことになりました。

リーダー校は、それぞれ、広報班とおもてなし班に分かれ、コロンビア広報班を郡上北高等学校、マダガスカル広報班を大和中学校、開会式、大会のおもてなし班を郡上高等学校と八幡中学校が受け持っていました。

広報班は、市民のみなさんに向け、ケーブルテレビで両国を紹介する番組制作を行いました。両国チームに対しては、郡上市を紹介するビデオレターを編集していただきました。

おもてなし班は、浴衣姿で開会式のおもてなしブースでの対応や会場案内を行い、大会では、ボールボーイや大会運営スタッフとして奮闘していただきました。

リーダー校の活躍により、多くの人たちに事前合宿を知ってもらうことができ、また、オリンピック関係者のみなさんにも素晴らしい取り組みであるとの評価をいただきました。

郡上市から東京オリンピックを目指す両チームに対してみなさんの熱い応援をよろしくお願いいたします。